

東京都議会友好代表団ソウル特別市訪問報告書

1 訪問概要

(1) 目的

東京都議会は、ソウル特別市との友好都市提携に基づく交流事業の一環として、ソウル特別市議会を隔年で訪問・受入をしています。平成23年度は、都議会が訪問する年にあたるため、ソウル特別市議会の招請を受け、東京都議会友好代表団を派遣しました。

交流を通じて、東京都とソウル特別市との友好・親善の増進に寄与するとともに、両都市に共通する都市問題等に関して、調査及び意見交換を行い、都議会における政策立案に資することを目的としています。

(2) 訪問都市

ソウル特別市

(3) 訪問期間

平成23年11月3日（木）から5日（土）までの3日間

(4) 代表団名簿

団 長	遠藤 衛	都議会議員	(東京都議会自由民主党)
副団長	酒井 大史	都議会議員	(都議会民主党)
団 員	泉谷つよし	都議会議員	(都議会民主党)
団 員	斉藤あつし	都議会議員	(都議会民主党)
団 員	今村 るか	都議会議員	(都議会民主党)
団 員	鈴木 隆道	都議会議員	(東京都議会自由民主党)
団 員	宇田川聡史	都議会議員	(東京都議会自由民主党)
団 員	上野 和彦	都議会議員	(都議会公明党)
団 員	高倉 良生	都議会議員	(都議会公明党)
団 員	大島よしえ	都議会議員	(日本共産党東京都議会議員団)
随 行	三橋 昇	議会局長	外 職員 2 名

(5) 費用 総額 約 2, 8 4 1 千円

(6) 日程概要

月 日	時間等	予 定
11月 3日 (木)	午前 午後	羽田空港発 金浦空港着 ソウル特別市議会表敬訪問及び市議会視察 (ソウル市内泊)
4日 (金)	午前 午後	OK民願情報センター視察 街園初等学校視察 交通情報センター視察 創意市政千萬オアシス視察 (ソウル市内泊)
5日 (土)	午前 午後	ソウル特別市内交通施設視察 金浦空港発 羽田空港着

2 報告

遠藤衛議員を団長として、民主党、自由民主党、公明党、日本共産党の各会派の代表から成る、友好代表団10名は、ソウル特別市議会議長の招請を受けて、平成23年11月3日から5日までの3日間、ソウル特別市を訪問しました。

ソウル特別市の概要



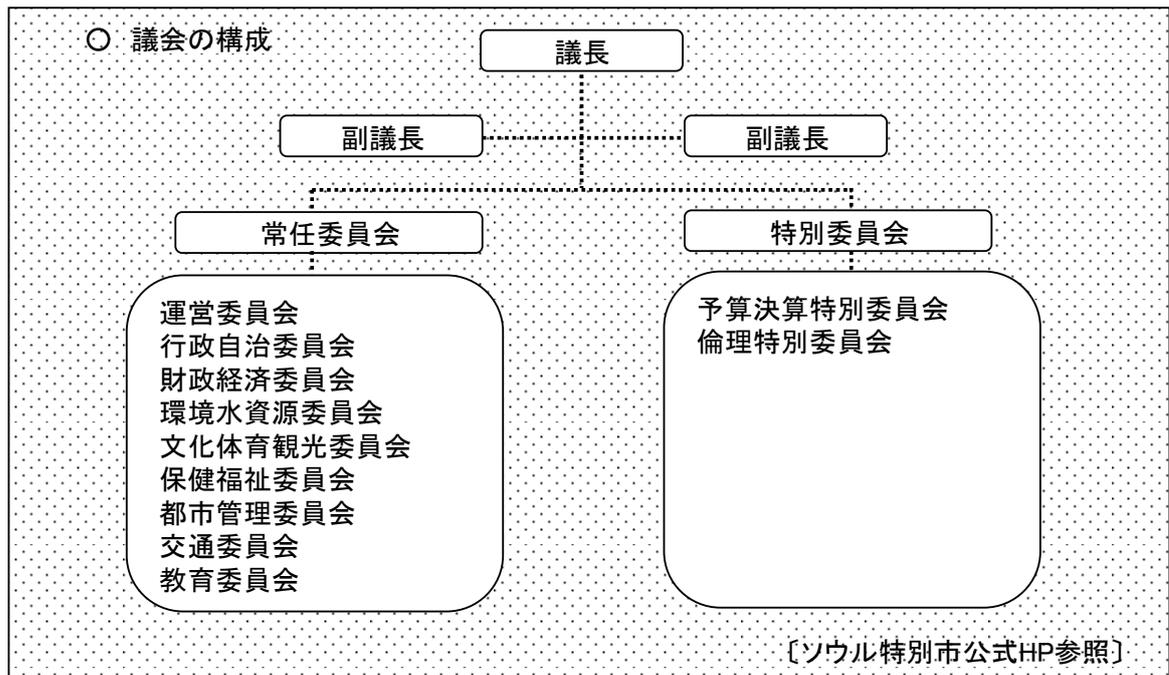
〈基礎データ〉

- ・ 市長：朴元淳（無所属 2011年就任）
 - ・ 人口：1,058万人
 - ・ 世帯数：422.4万世帯
 - ・ 面積：605.41 km²（東京の約1/3）
 - ・ 行政区域：25自治区
- } (2010年)

ソウル特別市議会の概要

- ・ 議員数：114名（地域区選出96名・教育議員8名・比例10名）
- ・ 任期：4年
- ・ 役職：議長1名、副議長2名 任期2年
- ・ 議会運営：本会議（年2回）常任委員会（10委員会）特別委員会（必要の都度）
- ・ 議会の機能：条例の制定・改正・廃止・予算案の審議・確定・決算の承認
行政事務の監査と調査請願の審査と処理等

○ 議会の構成



まず、最初にソウル特別市議会の許光泰(ホ・グァンテ)議長を表敬訪問しました。昭和63年(1988年)に東京都とソウル特別市との間で友好都市提携を結んで以来、東京都議会とソウル特別市議会との交流を初めとして、文化、経済、教育、スポーツなど広範な分野における両都市の多彩な交流が行われ、相互理解と友好が一層深まったことを確認しました。また、許光泰議長から10月末に行われた市長選挙後の市政の課題等について、市民の生活の質を高めるためには恒常的な福祉政策に力を入れていくことが必要であるとの説明がありました。その政策の中心となるのは、教育と福祉であり、給食の無料化や老人福祉、身体障害者福祉であるとのことで、それら今後の新しい福祉政策について意見交換を行いました。

次に、東京都議会友好代表団を代表して遠藤団長から東日本大震災の発生における韓国からの人的支援、物的支援及び、ソウル特別市議会議員の義援金を許光泰議長が5月に、直接都議会に届けられたことに対して、感謝の意を表明しました。



<表敬訪問の様子>

その後、ソウル特別市議会の本会議場に移動し、現在の第8代ソウル特別市議会(2010年6月2日選挙)及び議員のさまざまな活動についての説明を受けました。大型スクリーンでの資料説明や各議席に端末画面が設置されているなどIT化が進んでいるソウル特別市議会の状況を確認でき、大変参考になりました。



<議場にて電子会議システムの説明を受ける代表団一行>

翌日の4日は、はじめに、21世紀のIT先進国家を目指した韓国で電子政府の取り組みのベンチマークとなっている瑞草(ソチョ)区のOK民願センターを訪問しました。センターは区役所本庁の行政支援局の下にあります。ここでIT技術を活用した様々な住民サービスのシステムと住民窓口の状況を視察しました。

ここでは、陳翼喆(チン・イックチョル)区長のほか、行政支援局長、企画経営局長、住民生活局長等の区幹部職員の出迎えを受けました。最初に、陳翼喆区長から、瑞草区について、面積が47.14㎢、人口が約44万人、大企業の本社・研究所が立地していることや、教育・福祉政策に力をいれていることなど区政の概要の説明を受けました。



＜瑞草区OK民願センターにて陳翼喆区長から区政概要の説明を受ける＞

その後、OK民願センター長の案内により、センターの窓口等を視察しました。「民願」とは、韓国では住民が行政機関に対し特定の行為を要求することなどを意味しています。例えば、申請に対して行政サービスを提供することも含まれ、住民の各種の手続きや申請をワンストップで行う総合行政サービスを実施しています。また、窓口での手続きだけでなく、国民番号とIDの認証により全国どこからでも電子申請でき、自宅でも証明書の発行ができるユビキタスのe-OK民願センターのシステムも2009年5月から運用しています。



＜証明書の自動交付機械説明の様子＞



＜OK民願センター内での説明の様子＞

まず、証明書の自動交付機械の説明を受けました。国と自治体のシステムをつなげているため、自治体の証明書だけでなく、国が所管しているものや裁判所が所管している不動産登記簿なども、この機械で申請し発行することができます。指紋の登録や国民番号等により個人認証を行い、誰でも利用できるようになっていました。ワンストップサービスでは、例えば食堂開設など飲食業のための各種手続きをセンターの窓口カ所で済ますことができるということです。窓口等の状況を視察しながら、市民の反応や経済効果などについて意見交換しました。センターの設置後は、役所の仕事の効率化・時間短縮が進んで、無駄な手間や時間がなくなり、住民の利便性が向上したため、市民の評判もよく、5年間で14億ウォンの経済効果があったとのことでした。

次に、同じフロアにあるソチョ 25 時センターを視察しました。ここでは、CCTV活用による安全監視システムの運営状況等を確認しました。

このセンターは韓国初の施設で、これまで区役所や警察等の部署別に分散運営していたCCTVを統合することにより市内の状況を24時間リアルタイムに監視しています。ここでは、係員がモニターで監視している状況をガラス越しに見ることができます。

ここはユビキタス情報センターとして、市内に設置した480台のカメラを通じた監視により様々な行政サービスを実施しています。違法駐車車両の自動取締まり、ごみの不法投棄取締まり、火災発生時の消防対応システムのU-s a f eシステム、232台の防犯カメラ、公共施設のエレベータ・ドア等の保守・開閉管理などのシステム運営から、高齢者の見守りまで行っています。また、この高齢者の見守りは、カメラとITセンサーを設置した高齢者世帯の24時間遠隔保護システムで、2007年12月に運用を開始しています。高齢者の動向や脈拍などをモニターし、4時間反応がないなど異常を認めるときには家族、消防等に連絡するものです。さらに、希望する高齢者の家族にモニター映像の配信も行っているとのことでした。これらのシステムを活用し、ソチョ 25 時センターでは、幅広く市民の安全を監視しているとの説明がありました。



<ソチョ 25 時センターで概要説明を受ける代表団一行>

カメラ設置に対する市民の反応や犯罪発生の予防効果、職員等の運営体制、投資費用などについて質疑しました。違法駐車や不法投棄の取締り業務は区の職員が行い、防犯業務については警察官がセンターに24時間常駐して監視しているそうです。カメラの設置については、市民から1,000件以上の要望が来ており、今年度も100台設置する予定とのこと。また、カメラが撮影した映像については犯罪捜査の資料としても活用していると伺いました。

次に、松坡（ソンパ）区の街園（ガワン）初等学校に移動し、授業状況等を視察しました。ここでは校長、教頭に説明と案内をしていただきました。

街園（ガワン）初等学校はわが国の小学校に当たるソウル特別市の公立小学校です。1988年に開校し、生徒数は782名、クラス数は29の学校です。教員は校長1名、教頭1名と教師36名で、その他に教育活動をサポートしてくれる人が15人程いるそうです。年間の授業日数は205日で、3月1日から第1学期、9月1日から第2学期との説明がありました。また、この地域でも子供が減少しており、6年生は6クラスあるが、4・5年生は5クラス、3年生以下は4クラスと減っているとのこと。

2010年度の国の学力調査ではソウル特別市の508校中、公立でトップ、私立を含めて4位となったとのことでした。さらに、教頭からは学校の授業では学科だけでなく、伝統文化の教育やものづくりの大切さを学ぶことにも力を入れているとの説明がありました。子供たちが野菜を自分たちで育てて収穫し、それを給食で提供する、あるいは、農村での体験活動や、専門家の指導による伝統食づくりの体験など積極的に韓国の伝統を学ぶ機会を作っているとのことでした。また、専門性を有している保護者による職業の説明会や音楽会・演奏会の開催、アジア独自の文化の紹介なども実施しているそうです。



<街園小学校での授業風景>



<図書館での説明の様子>

学校教育内容の説明後、校長の案内により教室や化学実験室、図書室、障害児教育室、体育館などを訪れ、子供たちの実際の授業の様子や学校施設を視察しました。1年生の作文の授業や図書館で本を読んでいるところ、英語の授業、

障害のある子供に絵を使用しての授業などを視察しました。生徒の学力が高いことについては、小学校としては特に教育方法が異なるわけではなく、地域の教育環境全体が良いとの説明がありました。

また、この小学校では不審者の校内侵入防止など防犯にも注意しているようで、校内の状況を監視カメラによりモニターするとともに、警備員が配置されていました。

次に、鐘路（チョンノ）区にあるソウル特別市交通情報センターを視察しました。ここは、ソウル特別市内の交通状況を総括管理・運営している交通情報センターです。ソウル特別市では1日の通行人口3,200万人で、1,000万人がバス、地下鉄を利用しているとのことでした。



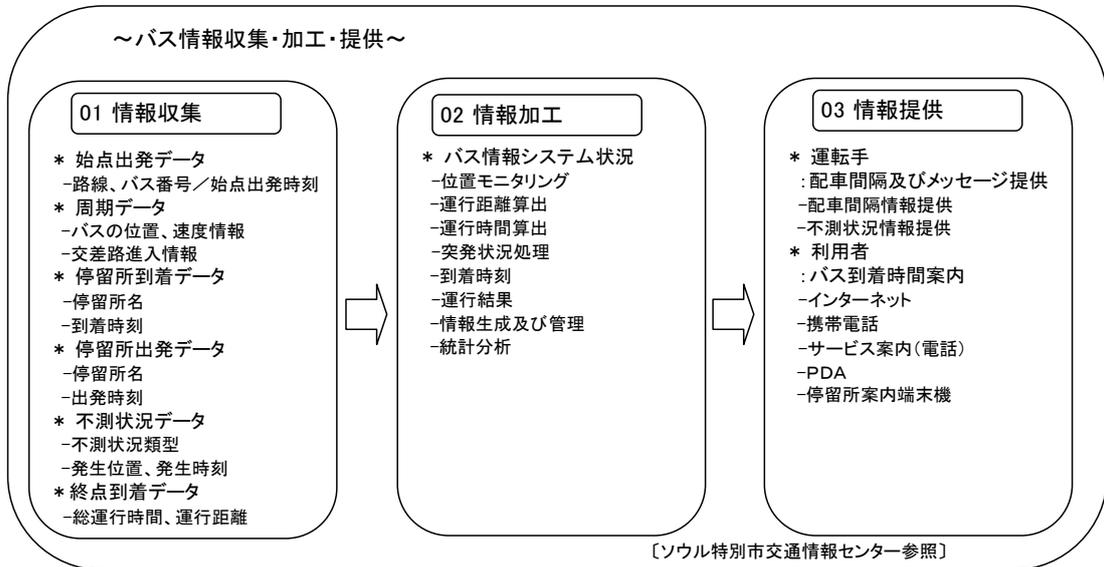
＜ソウル特別市交通情報センターで説明を受ける代表団一行＞

バスに設置した700台のCCTVカメラとGPS受信機によるバス情報システム（BMS）、交通カードシステムの情報に加え、道路上のカメラ（道路450台、交差点300台）による違法駐車取り締まりシステム、地下鉄の運行情報、ソウル地方警察庁や韓国道路公社、交通放送などの各種情報を収集・加工し、統合した上で、市民に情報提供し移動の円滑化と公共交通の定時性確保に寄与しているとのことでした。

例えば、バス運行システムの情報をもとにした約8,000台、400路線のバス運行管理情報や事故・工事等の情報について、インターネットや携帯電話で停留所別の情報がリアルタイムで市民に提供されています。バス運転手にも車両間隔情報を伝えています。また、バス専用レーン上の違法駐車は、市内のカメラにより監視し、発見次第違法駐車の状態を即時に把握、証拠として写真を撮影、罰金の通知書まで自動的に発行しています。

道路上のカメラによる交通事故等の即時確認や無人の違法駐車取締りは、バスなどの公共交通の利便性を高める経済効果だけでなく、駐車マナーも向上させているとの説明がありました。ソウル特別市ではバス、地下鉄及びタクシーで利用できる大衆交通カードシステムを導入していますが、カード利用者の

90%はバスを利用しているそうです。2,400万件に上るカードの利用状況は、基礎情報として料金体系の検討にも活用されているそうです。この他、カードシステム導入時のソウル特別市の財政支援などについても伺いました。



＜バスの運行情報内容の収集から市民への情報提供までの流れ＞

次に市議会に戻り、ソウル特別市民からの提案やアイデアがどのようにして市政に具体的に反映されているかその仕組みについて説明を受けました。これは「創意市政千萬オアシス」と名付けられています。



＜創意市政千萬オアシスの概要説明を受ける代表団一行＞

ソウル特別市では市民などから提案されたアイデアを基にした施策が実現しています。例えば、清流復活事業で有名な清溪川（チョンゲチョン）にカップルのプロポーズスポットを設置しました。ここは観光名所にもなり、既に 770 組のカップルが成立しているそうです。また、地下鉄の終電の車内を見回る終電安全委員の設置や交通渋滞の中を迅速に駆けつけることのできる救急オート

バイ制度などの紹介がありました。

この千萬オアシスでは、市民は誰でも、いつでも、どこからでもインターネットやその他の方法でアイデアを市に提案できます。その中から、良さそうなものや関心が高かったものを市民が推薦し、内容や実施方法等についてオンライン上で議論します。2006年10月からこれまでの市のホームページへのアクセス件数は57万件に上り、提案件数は13万5千件になるそうです。

そして、市の担当部署や専門家の実務者会議で政策的に実現可能かどうか検討し、提案が実現可能なものとなるよう手順を考え、変更を加えます。さらに、2ヶ月に一度200人の市民が参加する公開の討論会を実施し、提案等を市の施策として創り上げ、決定していきます。これまでの市民提案アイデアの採択件数は306件になったそうです。市議会の関与は、条例の制定時に関わる人が多いとのことでした。

5日は、ソウル特別市内でバス停などの交通施設を視察しました。バスは、行き先別（長中距離や近郊等で）に車体の色が区別されており、長距離バスは道路の中央を優先的に走行することができるそうです。バス停での表示も色により区別されています。到着予定時刻や後続バスの運行状況だけでなく、到着予定のバスの種別が、低床バスであるかなども示されています。障害者等への情報サービスともなっており、乗客がバスの車両を選んで乗車することができるようになっていました。



<市内のバスの運行及びバス停留所での説明の様子>

また、一部のバスの搭乗口の上にはCCTVカメラが設置されており、道路状況等の映像をリアルタイムで交通センターに送るようになっていました。この映像は、バスの運行管理に利用するだけでなく交通事故や犯罪の解決にも役立てており、市民からの映像に対する問い合わせもあるとのことでした。

バス停では、切れ目無くバスが停車、発車していました。到着表示も方向別に数台ずつ表示されていて利用者にとって利便性が高そうでした。また、街路樹が背の高い松の木があり、これは、市民の提案により落ち葉の出る木から松

の木に植え替えているとのことで、前日説明のあった市民提案の施策の一つだそうです。

3 結び

今回の訪問では、韓国のIT化の最先端の状況を、市民サービス提供の現場と交通情報管理・提供の現場で視察することができました。また、韓国の伝統教育やものづくり教育に力を入れている小学校の教育の現場で、授業を見て、話を伺うことができました。これらの視察や率直な意見交換は東京都政を考える上でも大変参考になるものと思います。

このたびの訪問にあたり、お世話をいただきましたソウル特別市の皆様に改めて心より厚くお礼を申し上げ、東京都議会友好代表団の報告とさせていただきます。